

早月尾根から「点の記」を目指して

～「試練と憧れ」てんこもりの劔岳山行記～



山 域：北アルプス 劔岳（早月尾根ルート）

山行日：2009年8月12日（水）～8月14日（金）

参加者：L:軟弱、SL山の家、PORORI、ウオレット、タタ、サキユ、任行、ha-min 計8名

コース：8/12 近鉄平端駅前 20:00 25:00 小矢部川PA（前夜泊）

8/13 小矢部川PA 5:00 6:10 馬場島 6:30----12:30 早月小屋（テント泊）

8/14 早月小屋 4:50----8:15 劔岳 8:40====11:40 早月小屋（テント撤収） 12:30====

16:30 馬場島 各地解散 23:00 過ぎ



富山県上市町馬場島、キャンプ場の先にある劔岳早月尾根登山口には、「試練と憧れ」と「劔岳の論」の碑が建つ。早朝、この登山口に立って、初めてこの碑と対面した我々にも、これから数多くの「試練」と「憧れ」が訪れることになろうとは、リーダーをはじめ誰もが予想だにできなかった。

以下、山行報告中、辛かったこと・苦しかったことを【試練】 嬉しかったこと・楽しかったことを【憧れ】と表記することとする・・・

8/12 20:00 近鉄平端駅をレンタカーで出発。京奈和道 京滋バイパス 名神 北陸自動車道を乗り継ぎ、途中休憩を挟みながら車は順調に進んでいく。車中は、7月の例会「立山三山登山バス」と明日以降の天気予想の話題でもちきり。各参加者の日頃の精進を祈念したのは、私だけだったのだろうか？

25:00 予定どおり「小矢部川(オヤベガワ)SA」(金沢の先)着、速攻でテント設営の後、都合良く、テント張りの四阿が空いていたので、これからの行動予定の再確認。その後、この場所で熟睡

された強者も多数。皆、明朝以降の晴天を願って、眠りについたのでが・・・

8/13 4:30 起床。各自 SA 内の食堂で軽食をとる。
5:00SA を立山 IC に向けて出発。立山 IC で降りる際、料金表示は「1,450 円」、ETC の恩恵にあずかった。「馬場島」方面へ、どこまでも真っ直ぐに道路は伸びていく。



6:10 馬場島キャンプ場内の無料駐車場に到着。各自、服装等準備を整え、共同装備を分担した後、今日のテント場である早月小屋まで雨が降らないことを願いながら登山口に向かう。(重いテントを担いでいただいた L・SL 有り難うございました。) キャンプ場炊事場で水を補給し(途中水場がないため、リーダーからは2リットル以上の指示あり)、全員がそろって登山口に立つ。登山口に建てられた石碑には、冒頭の「試練と憧れ」の文字が刻まれ、皆の心も高ぶる。

【試練 : いきなりの急登】6:30 いよいよスタート、気持ちを鼓舞して、取り付きからの急登に臨む。慣れないテント泊用フル装備を詰め込んだザックの重さが、両肩に堪える。後で知ったのだが、早月尾根は北アルプスの三大急登といわれているようだ。しばらくして、「松尾奥ノ平」が近づくと、先頭を行く SL から衣服調整の指示があり、ほっとする。小休止の間に、サンダル履きの後発組が追い越していったが、やはり彼らもすぐ先で一本入れることになるのである。



【憧れ : 癒しの巨木】休憩ベンチがある「松尾奥ノ平」からは、しばらく平坦な道が続くが、再び急登が始まる。登山道沿いには、樹齢何百年にもなる杉の巨木が多く生え盛り(標高 1,400m ぐらいまでか?)、登山者を癒してくれる。しかし、その根は広範囲に広がり、逆に歩行の妨げになる場所も多かった。



【試練 : 雨中の激登】

8:00 標高 1,200m を超えると尾根

筋にでて、左右の展望が拡がり一息つき始めたのも束の間、ついに皆が怖れていた雨が降り出した。幸いにも、小雨&無風で、しばらくは傘とザックカバーでしのげそうだった。しかし、高度が上がるにつれ、ますます雨はひどくなってくるように思え、テンションは下がりっぱなし。なお、登山道には 200m 毎に標高を刻んだ標識があり、これが休憩の目途となっている。

9:50 標高 1,600m 「早く、早月小屋で冷たいビール!」の想いから、疲れた足に気合いを入れるが、雨のせいで足下もぬかるんできた。長時間傘を持つ手にも疲れがたまって



きたが、200m 毎の小休止の折りにつけ、壊れた傘をさした山の家 SL の軽口と冗談が皆の心をなごませ、また、喉を潤すビールへの憧れが今にも切れそうな心のよりどころとなっていた。11:30 小屋が近づくにつれ雨は上がってきたが、標高2,000m からも急登はなおも続く。途中、若い下山者に小屋までの時間を聞くと約 10 分とのこと。この 10 分が今まで生きてきたなかで一番長かった。(実際には 30 分以上、“若い山岳ランナーの下り時間は、絶対信じてはいけない”ことを全員が身をもって悟った！)

ビールが待ち遠しい小屋間近、岩の上から小屋の関係者がルート指示を行っている最後のロープ箇所をこえると、早月小屋まではあとわずかとなる。

【憧れ：待ちわびたビール】

12:30 早月小屋着、霧のため展望はなし。(1日目：行動時間6時間 休憩数回 登り一方)

テント場にはすでに数張りのテントが設営済。手際よくテント二張を設営後、さっそくビール(大@800円、小@500円)を片手に本日の反省会開始。14:00 宴たけなわとなる前に、無情にも再び雨が降り出す。それも今度は本降りとなりそうだ……(‘_’^; 参加者8名は、L以下「真面目班」とSL以下「???班」の4人づつ2班に分かれ、各テント内で食事をつくることになっていた。当真面目班は、体の疲れを癒すためしばし横になるも、隣のテントでは引き続き反省会が続いていたようだった。

【憧れ：豪華な山食】 16:00 黄昏時が近づくと、いよいよ待ちに待った夕食の時間だ。今回の食担 porori さんが厳選された食材を、手早く調理するリーダーと porori さん。さすがにテント慣れした手つきで、短時間で仕上がっていく。本日のメインディッシュは、鰻丼。春雨サラダとみそ汁、食後のコーヒー(ドリップ式)付である。まさか、山中でほかほかの鰻丼が食べられるとは思っていなかったなので、参加者全員が絶賛!!!

【試練：デジカメ水没事件】 テントの外は小雨が降り続いていたが、中でゆっくりとくつろいでいたその時、porori さんの悲鳴が……。テント内が浸水し、ザックに付けていたデジカメが水没していたのだ。誠にお気の毒な事態に全員無口になりましたが、その後一晩中、スイッチの故障したデジカメから発する点滅光に、安眠できなかった人があったことを知る者は、極めて少ない。

8/14 3:30 起床。トイレをすませ(内容は試練になるので省略)身支度をするが、外は相変わらず霧雨が降り続いていた。本日の朝食はボリュームのあるパン2個+卵スープ。「点の記」を目指すためのエネルギー補給も充分だ。食事中にも雨が上がることを期待したが、リーダーから雨具着用とサブザック&ヘッドの指示。

【憧れ：朝日の恵み】 4:50 わずかな霧雨が降り続く中、点の記めざして出発する。今日も最初から急登だ。しばらくして空が明るくなり、最初の小休止で、雨具上着脱着の指示が出た。尾根筋に出ると、下の方には



雲海がきれいに見えだした。全員の顔に笑みが広がる。
「さすが、リーダーのおかげやな〜」昨日から、“リーダーの読み間違いはない。絶対明日は、サングラスいるで!”と豪語していた先頭のSLが、最後尾に行くLを何度も持ち上げ、全員一致でそれに合唱。素晴らしい天気となったことに、皆感謝する。2回目の休憩で雨具のズボンも脱ぎ、すっかり身軽になったとたん、まぶしい朝日が登山道正面の山「小窓の頭」から降り注いできた。尾根筋につづく登山道の右側には大日・奥大日岳方面が、左側は小窓尾



根の荒々しい岩壁を見ながら徐々に高度を上げていくと、いよいよ劔岳山頂がその姿を現した。



【憧れ : 高山植物と大パノラマ】

登山道脇には雪渓が残っている箇所もあり、マツムシソウやチングルマなどが、あちこちに咲いている。厳しい日程ゆえ、ゆっくり写真を撮っている時間はなかったが、山をバックに咲くその美しさは、今も目に焼き付いている。

【試練 : 鎖場を越えて】 P2614 を過ぎると、劔岳西面の岩壁が圧倒的なスケールで展開する。所々に鎖場が現れ、頂上までの足場も悪くなるため、慎重な行動が要求されるところでもある。大岩を重ねたような「カニのハサミ」を越えると難所は終わって、あとは一気。じきに別山尾根分岐の標識にたどり着いた。



【憧れ : 点の記との出逢い】

8:15 そのすぐ先が、小さな祠のまつられた劔岳山頂、憧れの「点の記」であった。恒例の集合写真を撮影後、各自思い思いに、山頂からの展望を思う存分楽しんだ。軟弱リーダーの掲示板での感想どおり、
”頂上での展望がすべてでした。途中の雨も、テントでの大雨もすべてOK”でした。ここまでのしんどさが、すべて癒されていく感じた。



【試練 : 2,240m の激下り】



8:40 本日中に帰宅する計画の厳しい山行日程のため、山頂でゆっくりしている時間はあまりなかった。登頂者が増えてきたのを機に、馬場島までの遠く長い道のりへの、改めてのスタートである。早月尾根コースは登山者が少ないとはいえ、狭い場所での対向には気が抜けない。小屋までの下山時も展望を楽しみながら、どんどん高度を下げていったが、途中、富山県警のヘリが頭上を旋回する。“何かあったのだろうか？”<帰宅翌日、滑落事故を知った。>

早月小屋が近づくにつれガスが上がってきて、瞬く間に室堂方面は雲に埋もれた。天候の読みは本当に難しい。

11:40 テント到着、テント撤収と荷物の整理など。
12:20 早月小屋からは、わずかな休憩を挟みながら、ただひたすら下り続ける。下山時も、途中から雨。早月尾根には、傘がよく似合うのか？

16:30 激下山にも、誰一人弱音を吐かず、計画時間どおり馬場島登山口に全員無事帰還した。

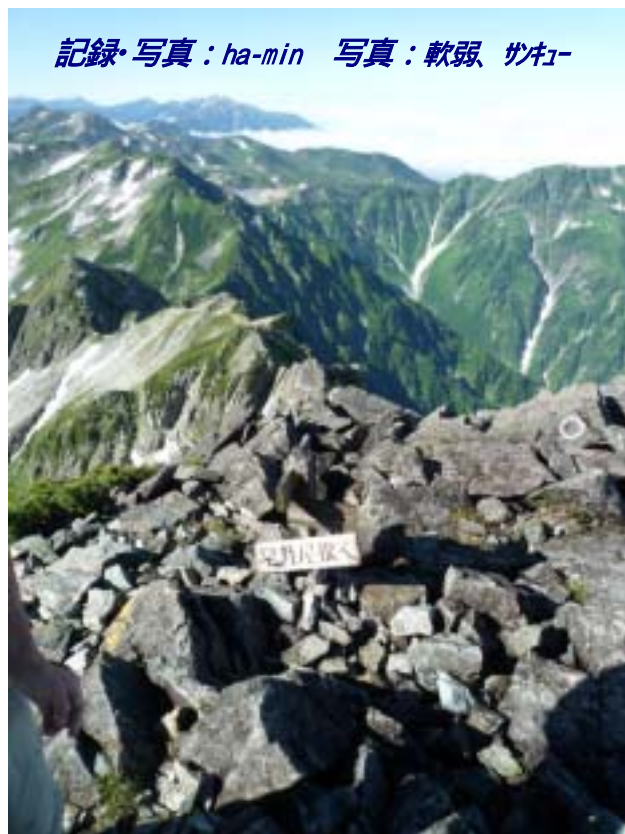
(2日目：行動時間 11 時間 30 分 累積高度差 ± 3,000m)

【試練 : 最後の試練】 17:00 馬場島から奈良へ。途中、北陸道某 SA で軽食をとり、安眠モードになりかけたその時、リーダーからの最後の試練の言葉が！“みんな疲れてるので、交替で運転をお願いします。” 慌てて、ホットコーヒーを買いに走ったのは私だけだったのだろうか？ 足も攣りそ～！ なお、帰りの高速でもたいした渋滞にもあわず、予定どおり、奈良帰着。

今回の山行は、参加者に数多くの「試練」と「憧れ」を与えてくれました。また、今回の山行ほど天候の変化に一喜一憂したことも珍しい。それゆえ、これらの「試練」と「憧れ」の多くは、いつまでも良き思い出として、心に刻み続けられていくことだろう。♫として、心から参加者全員の想いを代表し、「今回のすばらしい山行を企画・実行していただいた軟弱 L に (感謝) ² です！」



記録・写真 : ha-min 写真 : 軟弱、サキユ-



会員掲示板より、参加者の感想など <抜粋>

お疲れ様でした 軟弱 リーダーが言うのも何ですが、早月尾根がこんなに厳しいとは... 皆さん調子よく山行していただき、ありがとうございました。頂上での展望が全てでした。途中の雨も、テントでの大雨も全てOKでした。

今朝の目覚めはいかがですか?—劔岳 ウオンテッド

軟弱Lの的確な判断で最高の劔岳を満喫。山の家SLのサービス精神に敬服
リーダー共々ハンドルを握ってくれた各ドライバーに感謝。
porori 亭のうな井(梅)に感激。いたれりつくせりに、自分はバスを降りてからはただ足を前に出すだけで済みました。
それにしても、早月尾根は長かった! 高かった! 遠かった! くだびれた。



【頂上へ最後の登り】



やはり事故があったようです サンキュー

早月尾根の登り、下りは噂に違わず厳しかったです。しかし、テマ場から山頂までの上り下りが良い天気恵まれて最高の山行でした。リーダーのおかげです(既に耳タコでしょうが)、さて、下りのヘリコプターですが、やはり事故があったようです。8月14日10時40分なので、丁度我々の下山途中です。

最高の劔岳!!! porori 昨日はこの山頂にいたんだあ~!あの持ちきれないあふれる感動がすでに過去のものになっているのが少し恨めしく、過ぎた時間を追っかけたい心境です。前回は劔沢からだったので早月尾根は(北ア三大急登の一つ)それなりに期待と不安が交錯する日々でしたがこの上ない素晴らしい劔を体験することが出来ました。

リーダーの企画、(11回目?の持ち上げ)皆様のおかげと感謝でいっぱいです。雑巾よりもドロドロのタオル、ズボン、靴を洗濯し、「兵どもが夢の跡」と苦笑いです。

やはり早月尾根は厳しかった イエティ

あの激登りと激下り、山頂からの大パノラマ やっぱリアルプスはいい。へとへとと、どろどろになって、見た目は敗残兵でも心は大満足。このふくらはぎの痛みとともに記憶が薄れていくのが惜しいです。

とことん疲れました。でも心地良い、疲れです。 ha-min

昨日までの疲れからか、今朝は8時過ぎまでぐっすりでした。ふしぶしが痛む身体にむち打って、PCを確認すると、皆さんUPがお早い!初日、雨の中の激登りを思い出しました。あの激登と激下り後のダイエット効果を期待しましたが変化なし。 “この体重計、壊れてんの?”



山の家 当日の頂上は最近に

無い見晴らしさでした。映画「点の記」に促された多数の方がいました。皆さん三角点の頭をナデナデ

していました。映画の後半で主人公が曰く「皆仲間です」が改めて蘇りました。前日の雨中の激登山に一糸乱れずテマ場へ!!設営後の乾杯で、それを皆で讃えました。翌日の激下山に誰一人弱音を吐かず時間通りに下山。7時間後の奈良では、一人一人暗闇に満足感と笑みを浮かべ解散していきました。「兵ども夢の跡」さながらでした。

次回また山で相まみえる事を期待して!